国語科学習指導案

学　級：１年１組　３０人
場　所：１年１組　教　室
指導者：教諭　松元　智宏

１　単元名　物語の続きを考え，アンソロジーを創ろう（教材名『少年の日の思い出』）

２　単元について

(1) 教材観

本教材は，「わたし」と「客」が幼い日の思い出について語り合う前段と，その「客」が思い出を語る後段からなり，前段と後段とでは語り手が変わる文章構成が特徴的な小説教材である。また，前段から後段へと入る部分に用いられる情景描写，チョウを好きという共通点をもちながら互いに相容れない「ぼく」と「エーミール」の人物描写，主人公が自分自身に罰を科す結末など，追究すべき課題に富む教材でもある。これらを精査・解釈することで，読み手は既有の知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりすることができるだろう。

特に，結末のチョウを粉々につぶすという行為は，主人公の価値観の変化を捉えるための重要な部分である。「一度起きたことは，もう償いのできないものだ」という主人公の思いは自分の取った行動を否定するものだが，大人へと成長する過程で得た一つの教訓とも言える。チョウをつぶす行為は，自分に対する罰や，やり場のない怒りをぶつけるという意味，また，チョウ集めからの決別などいくつかの意味をもつと読み取ることができる。本文のどの場面に注目して読み取るのか，或いはどの部分と部分を関連付けて読み取るのかでも印象が変わってくるであろう。

(2) 生徒観

本学級の生徒に対して行われた学力診断テスト（ＮＲＴ）の結果，「心情を読み取る」問題では通過率 53%（全国 45%）であった。「まるで～ようだ」という比喩に関する「文章表現」の問題では８％（全国 14%）の通過率である。「場面読み取り」に関しては，正答率が 62%で，全国 48%を超えていた。心情や場面の読み取りなど物語の流れに即した大まかな読み取りはできるものの，言葉一つ一つを捉えて解釈する読み取りに課題が見られる。これまでの授業においても，一読した自分の思い込みだけで考えてしまう生徒が多く見られ，叙述に即して読み取ろうとする態度が育っていないことが気になった。

そこで，登場人物の心情に迫るには描写を基に捉えることが大切なのだと気付かせ，叙述から筋道立てて解釈し，人物像を捉えたり読みを深めたりする授業を構築したい。

(3) 指導観

既習内容を活用しながら読み進め，心情の変化を図式的に捉えさせたり，登場人物を対比的に考えさせたりして精査・解釈させる。特に，自分の考えを形成する根拠として本文が大事であることを理解させるために，叙述を基に読み取る思考を図式化して捉えられる指導の工夫をしたい。

生徒の初読の疑問をもとに，本単元の指導目標・指導事項を踏まえた課題（問）を設定し，確認的な読みから分析的な読み，批評的な読みへと段階を追って指導し，その習熟を図るために，ピラミッドチャートなどの思考ツールを効果的に使って協働的な学習を実現したい。

3　単元の指導目標

○　場面の展開や登場人物の描かれ方について情報を整理しながら読み，その判断や行動について自分の考えを広げ深めようとしている。【関心・意欲・態度】

○　場面の展開や登場人物の描かれ方について情報を整理しながら読み，文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の考えを広げ深めることができる。【読む能力】

○　語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。【伝統的な言語文化と国語に関する特質】

4　単元の指導計画

(1) 評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度	イ　読む能力	ウ　言語についての知識・理解・技能
①　場面の展開や登場人物の描かれ方について情報を整理しながら読み，その判断や行動について自分の考えを広げ深めようとしている。	①　場面の展開や登場人物の描かれ方について情報を整理しながら読んでいる。 ②　文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の考えを広げ深めている。	①　語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読んでいる。

(2) 指導と評価の計画

時間	指導内容	評価規準
1	①　学習目標を確認し学習の見通しをもつ。 ②　本文を通読し，「エーミール」と「ぼく」が，チョウに対してどのような思いをもっているかまとめる。	ア－① イ－②
2	①　「客」の話を四つの場面に分け，物語構成図にまとめる。 ②　「エーミール」と「ぼく」のチョウに対する思いが読み取れる箇所にサイドラインを引く。	イ－① イ－②
3	①　「エーミール」がチョウについてどのように思っているのかをピラミッドチャートで整理する。	イ－①
4 (本時)	①　「ぼく」がチョウについてどのように思っているのかをピラミッドチャートで整理する。	イ－①
5	①　なぜ「ぼく」はチョウを指で粉々にしてしまったのか考える。	イ－② ウ－①
6	①　現在の場面に戻り，「客」がどのようなことを話すか考える。 ②　物語の続きを考え，文章にまとめる。 （まとめた文章はアンソロジーとして一冊にまとめ，教室に掲示する。）	イ－② ア－①

5　本時の実際（4／6）

(1) 単元名　物語の続きを考え，アンソロジーを創ろう（教材名『少年の日の思い出』）

(2) 学習目標

登場人物の描かれ方について情報を整理しながら読み，「ぼく」のチョウに対する思いについてまとめることができる。

(3) 「判断基準」の設定

学習課題：「ぼく」のチョウへの思いはどのような思いだろうか。

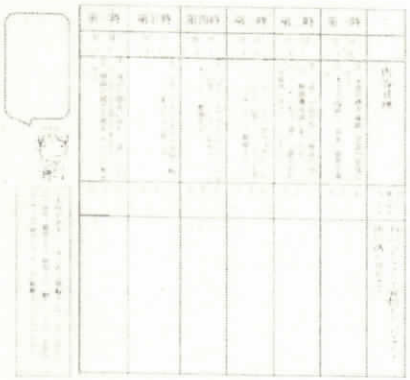
評価規準	○　登場人物の描かれ方について情報を整理しながら読み，「ぼく」のチョウに対する思いについて自分の考えを書いている。
評価の場面	○　終末時における課題解決場面（まとめ）。
評価の対象	○　学習課題に対して生徒がまとめた内容。
判断の要素	「ぼく」のチョウに対する思い，叙述から解釈した言葉，本文の引用
判断基準B	「ぼく」のチョウに対する思い。------ 叙述から解釈して書いている。 本文を引用して書いている。 【予想される生徒の表現例】 「ぼく」はどんなものよりもチョウが好きだと考える。 なぜなら「朝早くから夜まで，食事になんか帰らないで」チョウを探しているからだ。食事よりも優先させてしまうなんてかなりのチョウ好きだと思う。 「ぼく」はチョウ中毒といえる状況に陥っていると考える。 なぜなら，チョウを見つけたときの気持ちを「微妙な喜びと，激しい欲望との入り交じった気持ち」と表現しているからだ。「激しい欲望」にかられているのならば，他のことができないような状況に陥っているのではないだろうか。現代におけるネトゲ中毒と同じような状況なのだろうと考えた。 「ぼく」はチョウを好きだと思いつつも実は大事に扱ってはいないと考える。 なぜなら，せっかく捕らえたコムラサキに「足が二本欠けているという，もっともな欠陥」があっても「エーミール」が発見するまで気付かず有頂天になっているからだ。
判断基準A	（判断基準Bに加えて） ○　より的確で高度な表現で書き表すことができるとともに，チョウを好きだという肯定的な読み取りだけでなく，好きなあまりに他のことをないがしろにしていたりチョウを大切に扱ってはいない面もあったりする批評的な解釈をしながら書けている。

(4) 研究の取組

ア　「見通し」・「振り返り」の手立ての工夫

(ア)　単元の中から課題を見いだし，見通しをもたせる場の設定

物語の続きを書くために，本時においてどんなことを解決するのかを導入時に見通しをもたせたうえで目標を確認させる場を設定する。



(イ)　自己の学習状況や変容を自覚し，次につなげる場の設定

まとめは，リフレクションシートを用いて「分かったこと・疑問に思ったこと・次に活かせること」について振り返させる場を設定する。

イ　積極的に交流・探究させる手立ての工夫

(ア)　シンキングツールを活用した自己の考えを形成する場の設定

自分の頭の中にある思いや考えを視覚的に整理するためにシンキングツールを用いる。ここでは，叙述から考え，段階を踏んで抽象化していく過程を「見える化」するためにピラミッドチャートを用いて交流・探究する場を設定する。

(イ) **生徒同士で協働的に問題を解決していく場の設定**

「ぼく」のチョウへの思いを叙述を基に解釈させながらグループで話し合わせる。話合いの手順をＩＣＴを活用して提示し，生徒同士が効果的に話合いを進め，互いの発言を踏まえて考えをまとめたり，広げたりする場を設定する。

(5) 展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	研究の取組
導入	7分	一斉	1　既習事項を基に，本時の学習課題を設定する。	・　様々なピラミッドチャートの例を提示し，学習の見通しをもたせる。 【補充指導】	ア－(ア) 学習の手順を確認する。
			「ぼく」のチョウへの思いはどのような思いだろうか。		
展開	3分	個	2　課題に対する自分の考えをメモする。	・　ここでは簡単に一文で書かせる。	
	7分	個	3　「ぼく」のチョウへの思いを読み取れる叙述を付せん紙に書き出す。		
	15分	班	4　「ぼく」のチョウへの思いを，ピラミッドチャートを使ってまとめる。 「遊戯のとりこ」「あの熱情」「食るようなうっとりした感じ」 →チョウに夢中 「特別に珍しいのでなくったってかまわない」 →チョウなら何でもいいと思っている	・　ＩＣＴを活用して例を提示する。 ・　図式化する矢印やコメントの書き方の例を提示する。 ・　本文の言葉を根拠として，それが上に行くに従って抽象化されていくことに気付かせる。	イ－(ア) ピラミッドチャートにより思考が視覚化され，課題に対する自己の考えが形成される。 イ－(イ) 付せん紙を操作したり矢印やコメントを書き込んだりする過程において，互いの考えが交流され深まる。
	3分	一斉	5　他の班の考えを聞き合う。	・　「『ぼく』のチョウへの思いは●●と考える。／なぜなら…」という文型を示す。	
	10分	個	6　理由も含めて課題に対する自分の考えをまとめる。	・　本文を引用させる。 ・　初めに書いた自分の考えと比較させ，自己の変容を自覚させる。【深化指導】	
			判断基準Ｂの生徒の表現例参照		
				・　早く書き終えた生徒には，前時の「エーミール」と比較させ，二人のチョウへの思いの違いについてまとめさせる。	
終末	5分	個	7　リフレクションシート使って自己評価をする。	・　リフレクションシートに「わかったこと・質問したいこと・次に活かせること」という視点で自己評価させる。	ア－(イ) 自己の学習状況をリフレクションシートにまとめることで自覚させ，次時の学習へつながる。